

「東京會館」編

企業内の婚礼宴会システムを統一 協力会社との情報共有も進め オペレーションの効率化推進

約4年間にわたる建て替え工事を終え今年1月8日に「NEWCLASSICS」をテーマに生まれ変わった東京會館。この建て替えを機に婚礼宴会システムの刷新も図った。今回のシステム刷新のテーマと期待する成果を東京會館情報システム室室長の渡辺陽史氏と本館宴会支配人の山本健嗣氏に伺った。

[取材協力] (株)東京會館 <https://www.kaikan.co.jp/>

婚礼宴集会の新システム 採用までの経緯

1922（大正11）年創業、約100年もの歴史を有する東京會館。格調高いバンケットや本格的なフランス料理で国内外のさまざまな要人を迎えてきた。その東京會館が建て替えられ、1月8日に新たなスタートを切った。

今回の建て替えは、東京商工会議所と三菱地所の所有する富士ビル、東京會館の三事業者の共同開発によるもので、旧来の4倍の敷地に複合ビルを設けたことで新東京會館の営業面積も格段に増えることになった。宴会場は10室から13室へ、レストランは7店舗となり、直営レストランとしては初の試みとなる鉄板焼レストランも登場した。さらに婚礼部門のオペレーションをテイクアンドギヴ・ニーズと協業するという新たな取り組みも行った。婚礼の施行も1日6件から10件まで受けられるようになり、飛躍的な売り上げ増が見込めるという。

[お問い合わせ先]
(株)ユニコーン
 東京事業本部：03-6808-1237
 大阪本社：06-6943-4560
<https://www.atlantis21.co.jp/>

このように営業環境が大きく変わる中、宴会婚礼の基幹システムも刷新。その経緯について情報システム室室長の渡辺陽史氏に聞いた。

「当社では2008年にそれまで使っていた自社開発のシステムからユニコーンが手掛ける婚礼宴集會支援システムBVManagerに入れ替えました。今回の建て替えを機に、現状に則したシステムの再構築を他社も含めて検討しましたが、婚礼宴集會に特化していることや、使い勝手のよさを実感していること、カスタマイズへの対応、提案力などを総合的に判断し、BVManagerの新システムを採用することに決めました」。

事業所間でシステムを統一し 営業状況の把握に貢献

(株)ユニコーンが提供するBVManagerとは、婚礼宴集會総合支援システム。導入企業に合わせたカスタマイズ対応が可能で、東京會館では四つの事業所ごとにそれぞれシステムを構築していた。これにより各事業所に最適化できるメリットがある一方、入力項目や表示などにばらつきがあったことも否めない。そこで新本館のオープンに際してプログラム見直し、



本館 宴会支配人
山本健嗣氏

表示、入力方法、オペレーションなどの統一を図ったという。

「BVManagerを約10年間使用中で更新したい点もありましたが、内容によってはプログラムを組み直さないとならない場合もあります。今回の建て替えはシステムのバージョンアップに加え、細かい修正を施す機会となりました」と、本館宴会支配人の山本健嗣氏は話す。

さらに渡辺氏もシステムを統一したメリットについて言及。

「スタッフが異動してもBVManagerを同じ動作環境で使えるようになりました。これまでは異動の際に使い方を伝えたり、習得するのに時間を要していましたが、これからはそういった時間が削減されるでしょう。予約、見積もり、メニュー作成、レイアウト作成、備品管理、さらに営業所ごとに違っていた請求書や見積書の書式も統一され、経営陣も各事業所の予



情報システム室室長
渡辺陽史氏

約状況や宴席の状況などが一目瞭然と把握できるようになったと思います」。

さらなる業務の効率化と ペーパーレス化を目指す

同社ではこれまでBVManagerを活用してきたことのメリットの一つに業務の効率化とペーパーレス化を挙げている。案件ご

との収支報告書の台帳がなくなり、手書きによる書類作成にかかる時間が減ったことで、顧客サービスなどに注力する時間が増えたこと。さらに情報共有や経営陣の数字の把握のスピードもアップしたという。

「たとえば宴席の人数が増えたとき、以前は手書きで修正していましたが、BVManagerでは人数変更を入力した瞬間に売り上げ見込み金額を把握することができます。また、売り上げの増減に対する理由も分析しやすく、スタッフの数字に対する考え方や責任感が増したと言えますね。また、婚礼では顧客が用意したPDFデータなども一括管理できるので、分厚いファイルができてしまうということがなく、必要な資料を探す時間短縮や紛失などのミスも激減しました」。

今回のBVManagerの刷新ではこうした業務効率化とペーパーレス化をさらに進めることができるという。

「宴会では、料理やドリンクの把握に加え、客席のレイアウトがオペレーションのキーになります。前後の宴席のレイアウトを知っていれば、セット替えに必要な人数が想定しやすく人件費にも影響してきます。レイアウトに合わせてクロスの手配、花を飾る場所、料理のコーナーがメニューに対して足りるのかどうかなど。

これまではこうした宴席のレイアウトをユニコーンのレイアウトソフトであるBVDraftを使って作り、プリントアウトしてスタッフに配っていました。それが今回の刷新では保存先がBVManagerになってリアルタイムに情報を流せるようになったのでオペレーションの効率化に寄与すると期待しています」(山本氏)。

さらには建て替え中から検討を行っていたテナントへの共有が、オープンを機に実現。さらなる効率化につながっているようだ。

「たとえば婚礼の打ち合わせには、披露

宴の中身だけではなくメイク、花のコーディネート、引き出物、演出なども含まれています。そのため専門的な内容に関しては美容室でリハーサルしていただいたり、花屋で花のアレンジやテーブルクロスなどを決めてもらったり。こうした打ち合わせのフィードバックは、これまで複写の紙を使っていました。こうした書類がどんどん増えていきます。それがAV関係のオペレーター、花屋、美容師などとシステム上でも連携し、BVManagerを介することで情報の共有・確認がスムーズになり、必要ときに必要な情報だけを見られるようになりました。入力情報のみならず、フラワーデッサンなどの添付資料も一緒に保存しておくこともできますのでペーパーレス化はますます進むでしょう」(山本氏)。

顧客情報の一元化についても期待

最後に今後BVManagerに期待することを両氏に伺った。

「宴会の場合は縮みの作業が大変です。さまざまな協力業者から請求書が自動的に人手を掛けずに集計できて精算できるようになるのが理想ですね。電子決済機能。プライダルで1つの婚礼で引き出物だけでも10社を超えるケースも出てきますから」(山本氏)。

「レストラン、宴会、婚礼の顧客情報を一元化していきたいと考えています。そして生涯顧客の醸成につなげていきたいと考えています。将来的にはソフトウェア型のロボットが代行・自動化するRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)で事務的作業の効率化が進むとうれしいですね」(渡辺氏)。

両氏は、今後も東京會館とユニコーンが連携してよりよいシステムのブラッシュアップができればお互いにメリットがあるのではないかと述べている。